

ヨーロッパとは何かーアイデンティティ形成の過程ー

—Europe in History: the making of European Identity—

森 貴子 (西洋史)

1. 講義の概要

2023年度後期・月曜日2限の外国史2は、三回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。履修登録者は12名(初等教育コース小学校サブコース3回生7名、中等教育コース社会科教育3回生4名、教育学研究科教育実践高度化専攻2回生1名)であった。

(1) 講義の目的

本講義は、ヨーロッパやネイションといった集団が、そのアイデンティティも含めて歴史的に構築されたものであるとの認識に至ることを目標としている。

この目標を達成するために、「ヨーロッパとは何か」という問いを設定した。その空間としてのまとまりは如何にして形成され、また如何なる歴史的な性格を持つのか。本講義では、こうしたヨーロッパ意識の形成過程を、いくつかの具体的事例を取り上げつつ長期的視点から検討した。そしてそこから、地域的アイデンティティの複層性や変容、アイデンティティ形成における歴史の役割、そして「他者」の重要性などを明らかにした。

こうした認識を得ることは、ひいては、近代国民国家の成立以来我々を強烈に縛り付けてきた「ネイション」の相対化に繋がると同時に、紛争をはじめとした現代世界の諸問題を考える際の、糸口にもなると考えている。

(2) 講義の詳細

授業は対面での講義形式で実施した。映像資料を可能な限り視聴してもらうなどして、アイデンティティの形成という抽象的なテーマを、学生ができるだけ身近に具体的に考察できるよう工夫した。まずはなぜトルコはEUに入れないのか、トルコを拒む「ヨーロッパ」とは何なのか、EUを脱退したイギリスの「ヨーロッパ」での位置付けはいかなるものか、などの問いかけをしたうえで、①古代ギリシ

アにおけるオリエンタリズム文化の受容と近代ヨーロッパにおけるその隠蔽(古代ギリシアの理想化)、②中世におけるヨーロッパ意識の勃興とその内容および背景、③ヨーロッパ各地域におけるゲルマン的要素とローマ的要素の併存、④キリスト教(カトリック)＝ヨーロッパの形成におけるギリシア正教の役割、⑤「他者」としてのビザンツ帝国、⑥オスマン朝と西ヨーロッパとの関係といった内容を扱った。以上のテーマは、ヨーロッパ・アイデンティティを形づくる要素を全て網羅しているとは言えないものの、その枢要な構成要素であり、思考の手がかりとして有用なことは間違いない。

2. 授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした。アンケートは2024年2月5日の最終試験の際、解答終了後に書面にて回答してもらった。回答者は履修登録者と同様12名であった。

問1～6は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

<評価基準>

- 5：強く思う (非常に良い)
- 4：やや思う (良い)
- 3：どちらとも言えない (普通)
- 2：あまり思わない (あまり良くない)
- 1：全く思わない (良くない)

<問い>

- 問1：この授業への出席状況は
- 問2：授業のテーマ・目的は、明確でしたか
- 問3：担当教員の説明は分かりやすかったですか
- 問4：配付資料・映像資料は有用でしたか

問5：授業の内容、レベルはあなたにとって適切でしたか

問6：授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問1	7	4	1	0	0
問2	7	5	0	0	0
問3	8	3	1	0	0
問4	11	1	0	0	0
問5	5	3	2	2	0
問6	8	3	1	0	0

<各問に対するコメント>

問5：少し難しく感じる部分があった

問6：アイデンティティや各国のルーツを知ることができた

問7～9は記述式で回答を求めた。

問7 この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

- これまでの歴史学習を具体的に振り返ることができた
- 大学でないと学べない専門的な内容で教養が身についたし、与えられるばかりでなく自分で考えられるシーンがたくさんあった点
- 世界史Bを受けていない人にとっても、ヨーロッパのことについて詳細に楽しく知ることができた点
- 世界史は苦手だったが、説明がわかりやすく、話も興味深かった
- 現代のトルコのEU加盟問題からヨーロッパのアイデンティティという問題を身近に感じることができた
- 高校のように事実を学ぶのではなく、アイデンティティについて学べたのが面白かった
- 高校世界史では見えなかったヨーロッパの複層性を見ることができた
- 映像資料を見て興味を持ち、授業を受けることができた点
- ビデオの活用がすごくわかりやすく良かった
- 映像教材が面白いテーマ、内容だった
- 映像資料や背景の説明があり、理解の手助けになった

●映像を見て、古代ギリシア文明がいかにヨーロッパの人々にとって重要なものであったのかを学べた点

問8 この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

- 振り返りのシートが欲しかった
- ノートを取るのに一生懸命になり、授業の際に頭に入れることが難しくなる点
- 板書が多すぎてそっちで手一杯だった
- 高校では日本史選択だったので、世界史Bを途中までしか習っていなくて背景知識がなく、私にとっては難しかった
- 最終テストの後、解説が欲しかった（テスト対策において正解や求められていることがわからず、モヤモヤしたままである）
- 後半になるにつれて、板書が多くなり、途中書き写すことに必死で先生の説明をしっかり聞けなかった時があったため、もう少しゆっくり授業を進めてほしい
- 板書を写して送ってほしい
- 特になし/なし（5名）

問9 この授業を受講して、日本という国の特質や、我々の生きる現代世界の諸問題について、考えることができましたか。

- ナショナル・アイデンティティについて、世界を考えることで日本にかえれたし、ロシア・ウクライナ問題とも照らし合わせたりできた
- 日本と外国の国々との違いや、現代のキーワードとも言えるアイデンティティを外国と絡めて知ることができたことで、もう一度考えてみようと思うきっかけとなった
- ヨーロッパの歴史について学ぶ中で、日本について改めて考える機会となった
- アイデンティティについて考えることができた。現代社会の諸問題などにも密接に関わっていることが分かった
- 各国のアイデンティティ形成や、それが世界にどう影響していくのか見ることができて良かった
- 自分ではなかなか意識することのないアイデンティティの問題について多くの気づきを得ることができ、これまでの歴史などを見直していきたいと思った

- もちろんです。日本がヨーロッパと比較して、アイデンティティがどのような考え方、捉え方が見ることができた
- あった
- あまりなかった／特になし（2名）
- コメントなし（2名）

3. アンケートに対するコメント

アイデンティティの歴史性、構築性をテーマとした本授業は、歴史的イベント・事実に関して、その受容の仕方と時代による変容を論ずることによって進められた。時間の経過に沿った通常の歴史の語りとは次元が異なるため、受講生にとっては少々難しく感じられたようだ（アンケートの問5や問8に対するコメント）。ただし問7からは、高校までの世界史とは異なる、本授業のようなアプローチを歓迎する回答も散見された。

映像資料に対する評価が高いことも確認できた。具体的には、NHK制作の大英博物館に関する「古代ギリシャ “白い”文明の真実」、また「NHKスペシャル・ローマ帝国 よみがえる幻の巨大都市 帝国誕生の秘密」は、古代ギリシャと古代ローマについての我々のイメージを明確にするために有益であった。特に前者は、古代ギリシャの真実が近代になって隠蔽されたスキャンダルをテーマとしており（所謂エルギン・マーブル洗浄事件）、アイデンティティの操作性について考えさせる非常に良い教材であった。また受講生には馴染みが薄いと思われるビザンツ帝国についても、DVDを準備した。「NHKスペシャル・千年の帝国ビザンチン～砂漠の十字架に秘められた謎～」を視聴させることで、エジプト・シナイ半島においていまだに帝国の記憶をとどめている修道院があること、正教会とカトリック教会、イスラーム教との関係（それぞれにとって十字軍の持っていた意味）などに触れ、帝国について考えるきっかけを与えることができた。受講生12名中5名が映像資料について言及していることを考えれば、授業者の狙い通り、これらの視覚資料が持つ教育効果は高いと結論できる。できればオスマン朝に関する映像資料も扱いたいと考えているが、現時点では適当な作品を入手できていない。今後も探し続けたい。

問8の回答からは、板書や授業のスピードが改善すべき点として浮かび上がった。板書

に関しては全てを書き写す必要はなく、自分なりのノートを作成するよう、常日頃から指導しているが、なかなか難しい面があるようだ（全てを書き写さなくては不安？）。授業スピードについても、3コマを使って映像資料を見せる都合上、扱う内容をこれ以上減ずるわけにもいかず、悩ましい。板書を一部資料化して配布することで、時間に余裕を持たせることができないか、検討してみたい。また、最終テストの後に解説の時間をとってほしいとの意見もあった。これも時間調整に関わる問題であるが、可能性を探ってみたいと考える。

最後に、問9からは、アイデンティティと歴史の問題について、受講生なりに思考してくれたことが読み取れた。ヨーロッパというアイデンティティの形成過程を問題とするなかで、日本についても考えるようになった、ロシアとウクライナの問題など、現代社会の諸問題についても考える糸口を得ることができた、自分では意識しづらいアイデンティティについて考え、これまでの歴史を見直してみたいと思った、などなど、授業内容に関するポジティブな回答が目立った。ただし以上の抽象的な「感想」から、例えば日本人や日本というアイデンティティの内容や歴史性、それが抱える問題について、受講生が具体的に何をどのように考えたか、思考の深化を読み解くのは難しい。この点は、「日本という国のアイデンティティ」に関する発展問題を最終試験に加えるなどの形で、地域における偏差や歴史性についての理解を、より詳しく丁寧に評価していく必要があると思われる。